

保健科学研究科 博士(後期)課程

授業科目名	分子生物学特講			担当者	森 芳史		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	運動器疾患の分子メカニズムをテーマとする。分子生物学的な知識・視点を身につけることで、運動器疾患をより多面的に理解できるようになることを目標とする。						
授業概要	本科目では、現代医学のあらゆる分野で病態の理解に必須である分子生物学を学修する。前半では教科書に沿って基礎的な知識を習得する。後半では、具体的に骨・関節・腱・靭帯といった運動器の各要素について、最新の研究成果も含めた講義を行う。さらに、自ら新しい知見の含まれる論文を読み込む訓練も行う。これら一連の学修を通し、分子メカニズムから運動器の発生・維持機構を理解することを試みる。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	講義時における口頭試問(30%)と提出レポート(70%)により、分子生物学的な知識や思考法が身についたかを評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	多くの英語論文を読む必要があり、相応の英語力があることを前提に講義と課題を構成する。必ず教科書を用意すること。時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
事前学習・事後学習とその時間	前半の授業については、教科書を十分に読み込み、必要に応じて更に文献や他の教科書などで疑問点を整理・解決することで、予習と復習を行う。後半の授業の予習は、次回授業で扱う英語論文を提示するので、それらを十分に読み込み、内容を自分でまとめ、疑問点を整理することで行う。後半の授業の復習は、授業時のノートや論文を読み直し、さらにレポート課題をまとめることで行う。予習・復習はそれぞれ2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						
授業計画						担当者	
1.分子生物学基礎① (生物の構造と機能)						森	
2.分子生物学基礎② (生物を理解するための化学)						森	
3.分子生物学基礎③ (生物を構成する化学成分)						森	
4.分子生物学基礎④ (DNAの複製・修復・組換え)						森	
5.分子生物学基礎⑤ (DNA、RNA、タンパク質)						森	
6.分子生物学基礎⑥ (タンパク質の構造と機能)						森	
7.分子生物学基礎⑦ (細胞間のシグナル伝達)						森	
8.分子生物学基礎⑧ (細胞内のシグナル伝達)						森	
9.分子生物学基礎⑨ (細胞、組織、器官)						森	
10.骨の分子生物学① (骨形成)						森	
11.骨の分子生物学② (骨吸収)						森	
12.軟骨の分子生物学①						森	

(成長板)			
13.軟骨の分子生物学② (関節軟骨の発生機構)		森	
14.軟骨の分子生物学③ (関節軟骨の維持機構)		森	
15.腱・靭帯の分子生物学		森	
教科書			
教・書籍名1	Essential細胞生物学(原書第4版)(日本語)	教・出版社名1	南江堂
教・著者名1	翻訳:中村 桂子、松原 謙一	教・ISBN1	978-4524261994
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	細胞組織学特講			担当者	井上 茂樹		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	細胞組織学特講では、リハビリテーション医療に応用される各種の物理的刺激に対する生体反応や治療メカニズムを細胞レベルで明らかにすることが重要な基礎研究になっていることから、理学療法や作業療法で有効な刺激量を培養細胞により検討する。特に物理療法は人体に物理的刺激を加えることにより、生体が本来備えている自然治癒力を促し機能の回復を高めるものである。その治療効果のメカニズムや最適量についての統一見解はなく、治療効果を高めるための最適な刺激量については不明な点が多いことに院生は目を向けることができる。						
授業概要	細胞組織学特講Ⅱでは、培養線維芽細胞を用い三次元様増殖をパラメータとして各種物理療法の最適条件に関する研究を行う。物理刺激の種類、強度、時間、頻度などを変化させ、三次元様増殖形成や分化に必要な閾値や致死量を解明し、物理療法における最適な刺激量の基礎とする。これまでに温熱刺激を含むいろいろな物理刺激の効果を培養細胞と人工骨（ハイドロキシアパタイト、以下HA）を用いて迅速に調べる方法を開発してきた。すなわち、マウス由来のC3H10T1/2培養細胞を用い、機械的刺激やレーザー照射を与え、あるいは電磁場刺激や超音波刺激を与えHAと混合培養するとその周り200μm以上の幅で周りを囲んだ細胞群が出現し三次元様増殖が形成されるのである。本特講では、これまでマウス線維芽細胞のHAを媒体とした、三次元様増殖形成に物理刺激が効果的に働き出す至適刺激量を明らかにした研究成果を踏まえ、臨床理学療法と細胞組織学の接点についての講義を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	研究の進捗状況および研究成果等により評価する。授業への積極的な参加態度（40%）、確認小テスト（40%）、課題レポート(20%)で評価する。なお、授業中に出された課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までには見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	口頭もしくは書面でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	1年次は1～8、2年次では8～15、3年次では論文作成を目標として履修を進めたい。なお、本特講の履修にあたっては分子生物学特講をあわせて履修することが望ましい。特に8～10などは加納教授の指導により、また11～14などは秋山准教授の指導により実験法を習得することになる。						
事前学習・事後学習とその時間	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題について、調べてきたことや実験したことなどを元にして「自ら学ぶ」「実験から学ぶ」実践型の学習が必須である。 ・必ず予習と復習を各2時間程度は行わないと、授業に出席していただいただけでは単位は取れない。 						
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室において毎週火曜日2限目をオフィスアワーの時間とするが随時対応可能。						
授業計画						担当者	
1. 細胞組織学関連分野からの検討1						井上茂樹	
2. 細胞組織学関連分野からの検討2						井上茂樹	
3. 臨床理学療法学との関連性1						井上茂樹	
4. 臨床理学療法学との関連性2						井上茂樹	
5. 使用細胞と培養1						井上茂樹	
6. 使用細胞と培養2						井上茂樹	
7. 人工媒体の選定1						井上茂樹	
8. 人工媒体の選定2						井上茂樹	
9. 物理的刺激の条件設定1						井上茂樹	
10. 物理的刺激の条件設定2						井上茂樹	
11. 機械的刺激の処理方法1						井上茂樹	
12. 機械的刺激の処理方法2						井上茂樹	
13. 三次元様増殖の形態観察1						井上茂樹	
14. 三次元様増殖の形態観察2						井上茂樹	
15. 三次元様増殖形成率1						井上茂樹	
16. 三次元様増殖形成率2						井上茂樹	

17. ウェスタンブロット法1	井上茂樹
18. ウェスタンブロット法2	井上茂樹
19. ストレス蛋白の誘導と測定1	井上茂樹
20. ストレス蛋白の誘導と測定2	井上茂樹
21. 細胞内外マトリックスの染色1	井上茂樹
22. 細胞内外マトリックスの染色2	井上茂樹
23. 細胞・組織の免疫染色1	井上茂樹
24. 細胞・組織の免疫染色2	井上茂樹
25. 細胞ダメージの定量的検討1	井上茂樹
26. 細胞ダメージの定量的検討2	井上茂樹
27. 三次元様増殖と理学療法1	井上茂樹
28. 三次元様増殖と理学療法2	井上茂樹
29. 三次元様増殖と理学療法3	井上茂樹
30. 単位認定試験	井上茂樹

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	「顕微鏡写真で見る細胞組織学」を教科書とし 適宜必要な文献および資料などを提示する。	教・出版社名1	メディカルサイエンスイ ンターナショナル
教・著者名1	坂井建雄・石村和敬（翻訳）	教・ISBN1	9784895924399
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	生理機能学特講			担当者	水谷 雅年、吉備国際大学未定教員		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜4限 集中講義	
S D G s 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	<p>生体の生理機能のうち、消化管運動機能における最新研究のレビューを読み、研究テーマの決定、研究の進め方、論文の書き方などの研究法を学ぶ。と同時により高度で複雑な生体の調節系について学ぶ。これらの学修により、保健科学を推進するために必要な研究法を体得でき、研究者・教育者としての一歩を踏み出すことができる。</p>						
授業概要	<p>消化管を構成している口から肛門までの各臓器における平滑筋および壁内神経系について、その解剖・組織学的知識、および生理学的知識を学び、各臓器毎の機能と形態の特徴についても学ぶ。その上で各臓器における消化管運動を調節している壁内神経機能、またそれをさらに調節している自律神経機構について学ぶ。さらに自律神経機構をコントロールしている中枢の働き、および消化管運動に影響を及ぼす反射のメカニズムについて学ぶ。ホルモンによる調節系についても学ぶ。これらの生理機能とその臨床との関連性をも講義する。これらの知識を踏まえた上で欧文論文を抄読し、実際の論文の書き方などを学ぶことができる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業態度、質疑応答の状態を50点、各学期末に行うテストの結果を50点として総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	英語のテキストを用いて行うので家庭での十分な予習と復習が必要です。とくに英語訳をしっかりと行ってこることが必須条件である。時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に英語訳をしっかりと行ってこることが必須条件である。その上で、参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	非常勤講師室において、授業の前後で行う。						
授業計画						担当者	
1. Transcription and Epigenetic Regulation						水谷	
2. Gastrointestinal Hormones						水谷	
3. Growth Factors in the Intestinal Tract						水谷	
4. Hedgehog Signaling in Gastrointestinal Morphogenesis						水谷	
5. The Role of Hippo Signaling in Intestinal Homeostasis						水谷	
6. Notch Pathway Regulation of Intestinal Cell Fate						水谷	
7. WNT Signaling in the Intestine: Development, homeostasis, Disease						水谷	
8. The Cell Cycle						水谷	
9. Cell Death						水谷	
10. Molecular Physiology of Gastrointestinal Function During Development						水谷	
11. Development of the Enteric Nervous System						水谷	
12. Enteric Neurogenesis						水谷	
13. The Physiology and Pathophysiology of Interstitial Cells of Cajal: Pacemaking, innervation and Stretch Sensation						水谷	
14. Enteric Nervous System Structure and Neurochemistry Related to Function and Neuropathology						水谷	
15. Enteric Nervous System: Brain-in-the-Gut						水谷	
16. Test						水谷	
17. Brain Processing of Gastrointestinal Sensory Signaling						水谷	
18. Extrinsic Sensory Afferent Nerves Innervating the Gastrointestinal Tract in Health and Disease						水谷	
19. Neuroimaging of Brain-Gut Interactions in Functional Gastrointestinal Disorders						水谷	
20. Enteric Neural Regulation of Mucosal Secretion						水谷	
21. Neuromuscular Function in the Biliary Tract						水谷	

22. Physiology of Gastric Motility Patterns	水谷
23. Clinical and Translational Aspects of Normal and Abnormal Motility in the Esophagus, Small Intestine and Colon	
24. Neurophysiologic Mechanisms of Human Large Intestinal Motility	水谷
25. Neuromuscular Physiology of the Pelvic Floor	
26. Tight Junctions and the Intestinal Barrier	水谷
27. Gut Barrier: Adaptive Immunity	
28. Gut Barrier: Innate Immunity	水谷
29. Chemosensing in the Colon	
30. Mucosal Restitution and Repair	水谷
31. Luminal Chemosensing and Mucosal Defenses in the Upper GI Tract	
32. Test	
	水谷

教科書			
教・書籍名 1	Physiology of the Gastrointestinal Tract. Volume 1 Sixth Edition	教・出版社名 1	Elsevier Academic Press
教・著者名 1	Ed. by Hamid M. Said	教・ISBN 1	978-0-12-815901-9
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ISBN 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ISBN 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ISBN 2	

授業科目名	運動機能学特講			担当者	河村 顕治		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	身体機能を回復させるリハビリテーションの基礎として、身体運動に関する特講を行う。学生は動作解析のデータに基づくコンピュータシミュレーションの技術と知識を身につけることができる。						
授業概要	骨・筋肉の解剖学、生理学、物理学を基礎とした運動機能を専門的に講義した後、ヒトの関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探究する。さらにコンピューターシミュレーションの技法を用いて、計測不可能な筋張力、筋パワーなどを求める理論について研究する。運動機能に関する研究には、歴史的な背景として筋力強化を単関節運動による筋肥大のみを目的とした時代から、多関節機能、パフォーマンスを重視する方向へと変化する流れが存在する。そのような流れの中でclosed kinetic chain exercise が注目されてきている。身体運動をopen kinetic chainとclosed kinetic chainに分類し、両者の筋出力特性の相違を詳細に検討し、特に二関節筋の果たす重要な役割について探究する。まとめとして人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について3次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（80%）について評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	人体解剖、力学、運動学の基礎的事項を理解していることを前提とする。						
事前学習・事後学習とその時間	事前に「筋骨格系のキネシオロジー」を用いて予習が必須である。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目を実施。						
授業計画						担当者	
1. 身体運動学について						河村顕治	
2. 関節の基本構造						河村顕治	
3. 力源としての筋肉						河村顕治	
4. 生体力学の基本						河村顕治	
5. 上肢(肩)						河村顕治	
6. 上肢(肘・前腕)						河村顕治	
7. 上肢(手根)						河村顕治	
8. 上肢(手)						河村顕治	
9. 体軸骨格(頭頸部)						河村顕治	
10. 体軸骨格(胸部)						河村顕治	
11. 体軸骨格(腰部)						河村顕治	
12. 下肢(股関節)						河村顕治	
13. 下肢(膝関節)						河村顕治	
14. 下肢(足関節・足部)						河村顕治	
15. まとめ						河村顕治	
16. OKCとCKC						河村顕治	
17. OKCとCKC						河村顕治	
18. 二関節筋の特性						河村顕治	
19. 二関節筋の特性						河村顕治	
20. コンピューターシミュレーション						河村顕治	

21. コンピューターシミュレーション	河村顕治
22. コンピューターシミュレーション	河村顕治
23. コンピューターシミュレーション	河村顕治
24. 歩行	河村顕治
25. 歩行	河村顕治
26. 立ち上がり動作	河村顕治
27. 立ち上がり動作	河村顕治
28. スクワット	河村顕治
29. スクワット	河村顕治
30. まとめ	河村顕治

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	筋骨格系のキネシオロジー	教・出版社名1	医歯薬出版
教・著者名1	Donald A. Neumann	教・ISBN1	978-4-263-21287-5
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動機能学特講			担当者	中嶋 正明		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	身体機能障害に対する理学療法の基礎として、身体機能障害について特講を行う。各身体機能障害の症状とその発生機序を説明できることをめざす。						
授業概要	身体機能障害について解剖学、生理学、運動学を基にその障害の発生機序について論理的に探求する。既存の考え方について再考し、論理的飛躍がある所を明らかにする。筋電図、重心動揺計、近赤外線分光器などを用い検証しながら検討する。そしてより効果的なアプローチを探求していく。本講義では理学療法士として実務経験を持つ担当教員が腰痛、膝痛などの整形外科的障害に対するアプローチおよび筋力強化方法を中心に解説する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（80%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	解剖学、生理学、運動学の基礎的事項を理解していることを前提とする。						
事前学習・事後学習とその時間	事前に文献等を配布するので読んで理解しておくこと。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階個人研究室6983にて、水曜日3-5限目に実施。						
授業計画						担当者	
1.運動単位（遅筋、速筋）						中嶋正明	
2.運動単位（サイズの原理）						中嶋正明	
3.痛みと運動単位リクルートメントパターン						中嶋正明	
4.腰痛と運動単位リクルートメントパターン						中嶋正明	
5.腰痛と運動単位リクルートメントパターン 筋萎縮						中嶋正明	
6.膝の痛みと運動単位リクルートメントパターン						中嶋正明	
7.膝の痛みと運動単位リクルートメントパターン 筋萎縮						中嶋正明	
8.破綻したリクルートメントパターンの修正（慢性腰痛）						中嶋正明	
9.破綻した筋リクルートメントパターンの修正（慢性腰痛 bird-dog Ex）						中嶋正明	
10.破綻した筋リクルートメントパターンの修正（慢性腰痛 modified bird-dog Ex、背臥位で出来る多裂筋Ex）						中嶋正明	
11.破綻した筋リクルートメントパターンの修正（膝の痛み）						中嶋正明	
12. Blood Flow Restriction（血流制限療法）と筋萎縮予防						中嶋正明	
13. Blood Flow Restriction（血流制限療法）の実際①						中嶋正明	
14. Blood Flow Restriction（血流制限療法）の実際②						中嶋正明	
15.まとめ（口頭試問）						中嶋正明	
教科書							
教・書籍名1	「生理学」			教・出版社名1	文光堂		
教・著者名1	真島英信			教・ISBN1	978-4-8306-0201-6		
教・書籍名2				教・出版社名2			
教・著者名2				教・ISBN2			
参考書							

参・書籍名1	適宜、配布する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	障害評価学特講			担当者	河村 顕治		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	<p>学生は、多くの疾患や症候群（症状）から起因する障害像の把握を目指して、障害構造分析の視点を量的なものから質的なものまで幅を拡げて評価方法を検証することができる。同時に、学生は得られた評価結果を対象者へフィードバック情報として提供することを念頭に置き、効果判定の提示法について模索することができる。学生は表面筋電図を用いた動作解析の知識と技術を身につけることができる。</p>						
授業概要	<p>障害像を把握する上で、どのような機器を用いて、いかにわかりやすい指標を提示するのかということが課題となる。とりわけ身体運動・活動に影響をもたらす関節運動や筋活動をどのような視点で捉えて評価するのか重要である。さらには、立位姿勢や歩行動作といった身体運動を統合する平衡機能の評価も障害像を捉える上では大切である。そしてこれらの運動器系や平衡機能系が統合されて身体運動や活動・行動につながっている。このようなことから、さまざまな疾患や症候群の特性を把握する上では、それぞれの機能を評価すると同時に“動作分析”を行うことによって障害像を捉えていくことが臨床でも適切であると考えられる。</p> <p>近年では、機能・身体構造レベルにおける症候分析と、活動・参加レベルにおける障害分析の視点から動作を観察していく症候障害学的な統合と解釈の必要性が提唱されている。症候障害学とは「健康状態および環境の変化によって引き起こされる現象としての動作の観察を基軸として、機能不全の要因とともに活動の適応を究明する」と定義づけられている。この概念は臨床思考過程を実践していく上で重要となる。</p> <p>症候障害学的な統合と解釈を行う上で、実際の“動作分析”を行うことによって機能・身体構造レベルにおける問題点を推敲し、さらにこの機能レベルを評価・測定することによって確証を得るという一連の行程を辿る必要がある。</p> <p>障害評価学特講では、より客観性・信頼性の高い評価・測定方法の習得を目指して、さまざまな身体機能・活動を評価できる方法論について検証する。さらには得られた結果を症候障害学的な統合と解釈に結びつけて、フィードバック情報として提供できる手段の構築を目指す。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（80%）について評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	人体解剖、力学、運動学の基礎的事項を理解していることを前提とする。						
事前学習・事後学習とその時間	<p>事前に資料を用いて予習が必須である。</p> <p>また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。</p> <p>なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						
授業計画						担当者	
1.障害評価学総論						河村顕治	
2.表面筋電図（1）						河村顕治	
3.表面筋電図（2）						河村顕治	
4.表面筋電図（3）						河村顕治	
5.筋力測定（1）						河村顕治	
6.筋力測定（2）						河村顕治	
7.筋力測定（3）						河村顕治	
8.平衡機能評価（1）						河村顕治	
9.平衡機能評価（2）						河村顕治	
10.平衡機能評価（3）						河村顕治	
11.動作解析（1）						河村顕治	
12.動作解析（2）						河村顕治	

13.動作解析（3）	河村顕治
14.動作解析（4）	河村顕治
15.まとめ	河村顕治
16. OKCとCKC	河村顕治
17. OKCとCKC	河村顕治
18. 二関節筋の特性	河村顕治
19. 二関節筋の特性	河村顕治
20. コンピューターシミュレーション	河村顕治
21. コンピューターシミュレーション	河村顕治
22. コンピューターシミュレーション	河村顕治
23. コンピューターシミュレーション	河村顕治
24. 歩行	河村顕治
25. 歩行	河村顕治
26. 立ち上がり動作	河村顕治
27. 立ち上がり動作	河村顕治
28. スクワット	河村顕治
29. スクワット	河村顕治
30. まとめ	河村顕治

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	機能回復学特講			担当者	森下 元賀		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	脳血管障害における運動障害、感覚障害、高次脳機能障害の回復に焦点を当て、機能の回復が生じる神経生理学的、脳科学的なメカニズムを学習する。その上で、リハビリテーション介入がどのように実施されるべきかを探索していく。本講義では脳血管障害において機能回復が生じるメカニズムを説明できること、それに対するリハビリテーションがもたらす神経学的変化に関して説明できることを目標とする。						
授業概要	<p>近年、非侵襲的な評価方法による脳機能の知見がめざましく進歩している。脳血管障害に対するリハビリテーションは現れている症状そのものに対する介入に加えて、神経学的な変化を促すことが必要不可欠になっている。そのためには、正常な運動、感覚、高次脳機能の制御機構を知り、それが障害された場合にはどのような変化が生じるのかを知る必要がある。さらに障害された制御機構がどのように回復するのかを脳科学的な知見をもとに理解する必要がある。本講義では、特に脳機能に焦点を当て、保健科学領域全般に必要な先行研究の理解、現状の問題点の整理、研究デザインの設計を行い、脳血管障害に対して有効と考えられる根拠のあるリハビリテーションを検証できる能力を身につける。</p> <p>この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	講義時に課題として課すレポートについて、先行研究の整理、自身の考察能力を評価する（40％）。また、最終試験として実施する口頭試問に関して、講義を通じた理解度を評価する。（60％）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので最終口頭試問までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	与えられた課題の達成のみならず、教員とディスカッションが出来るよう自己学習を行った上で、調べた内容に関して自分なりの考えを持っておくこと。あくまでも教員による一方的な講義ではなく、履修者との議論によって講義が進められていくので注意すること。						
事前学習・事後学習とその時間	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階、6418号室で火曜日2限に実施する。その他授業前、昼休みは随時対応しています。						
授業計画						担当者	
<p>春学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 脳の体性局在 3. 脳による運動制御 4. 脳による感覚制御 5. 高次脳機能 6. 脳の可塑性1 7. 脳の可塑性2 8. 運動学習理論1 9. 運動学習理論2 10. 運動学習理論3 11. 使用依存的变化とCI療法 12. 運動学習理論とCI療法 13. ロボットを使用したリハビリテーション 14. ニューロモデュレーション 15. 中間試験(口頭試問) <p>秋学期</p>						森下元賀	

1. 電気刺激療法	
2. 運動イメージとリハビリテーション1	
3. 運動イメージとリハビリテーション2	
4. 課題特異的練習	
5. 有効な介入方法の探索(それぞれの介入の利点、欠点の整理)	
6. 研究疑問の設定	
7. 研究としての新規性、実用性の検討	
8. 研究デザインの妥当性の検証	
9. 研究計画書の作成方法	
10. 研究計画書における先行研究の整理	
11. 研究計画書における倫理的配慮	
12. 研究計画書についての意見交換	
13. 研究計画書における予想される結果の整理	
14. 研究計画の発表	
15. 実施計画の整理、見直し	
16. 最終試験(口頭試問)	

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	適宜、資料を配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	機能回復学特講			担当者	森 芳史		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	骨関節系障害の病態を理解し、その機能及び障害に対する評価・治療を適切に行えるよう系統的に探求する。種々の動作課題を、筋力測定装置および動作筋電図や神経反射測定筋電図および重心動揺計にて分析し、コンピューターでデータを解析し運動療法の科学性を探求できる知識や技能を修得する。						
授業概要	高齢化が進むにつれ、健康寿命の重要性が叫ばれ、骨関節疾患の治療のみならず、予防についての進歩が著しい。これはまた、スポーツ医学の分野においても同様である。こういった現状において理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかななくてはならない。本講は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習し、従来慣習に行われてきた理学療法手段の信頼性・妥当性を文献及び実験的に明らかにし、新しい診断法・治療法に取り組むべき科学性を身につける。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40％）。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（60％）。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので最終口頭試問までにみなしておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	理学療法学の分野で修士論文作成を希望する者に対して講義を行う。 時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
事前学習・事後学習とその時間	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						
授業計画						担当者	
1.関節・脊椎障害の診断（理学的検査の現況）						森	
2.関節・脊椎障害の診断（理学的検査の実技）						森	
3.関節・脊椎障害の診断（X線・MRI画像診断の現況）						森	
4.関節・脊椎障害の診断（X線画像読影の実技）						森	
5.関節・脊椎障害の診断（MRI画像読影の実技）						森	
6.関節・脊椎障害の診断（超音波画像診断の現況）						森	
7.関節・脊椎障害の診断（超音波画像診断の実技・上肢）						森	
8.関節・脊椎障害の診断（超音波画像診断の実技・下肢）						森	
9.関節・脊椎障害診断への筋電計利用の現況						森	
10.関節・脊椎障害診断への筋電計応用の実際・針筋電図						森	
11.関節・脊椎障害診断への筋電計応用の実際・表面筋電図・誘発筋電図						森	

12重心動揺計の現況と意義	森 森 森
13重心動揺計使用の実際	
14.筋力測定の現況と意義	
15. 関節音の現況と意義	

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	前もって資料・テキストを配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	リハビリテーション援助学特講			担当者	齋藤 圭介		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>リハビリテーション領域における地域を舞台とした研究方法論の修得をテーマに、その遂行に必要な思考と知識技術を身につける。</p> <p>本授業では、リハ専門職の積極的な参画が期待されている障害者・要援護高齢者に対する地域支援に焦点を当て、研究トピック、ならびに研究方法論について解説しながら、研究課題を見極め適切な研究デザインを設定するための科学的思考を身につける事を到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>リハの理念は「全人間的復権」であり社会生活の自立と共生が本来の姿である。入院リハと共に慢性期支援や健康増進など地域を舞台とする支援が重視する今日の状況は、本来の理念を具現化するものである。EBMの潮流の下で、経験則重視から科学的支援への転換が図られ研究課題は山積しており、研究課題を見極め研究デザインに結びつける知識や思考の修得が必要である。本特講では、地域を舞台とした支援に焦点を当て、リハ専門職の積極的な参画や支援の質向上が期待されているトピックや研究方法論を解説し、研究的思考を身につける。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業における課題の取り組み状況（80%）、ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし、両者より評価する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。						
ループリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価に関わる課題やレポート等は、授業内、またはMicrosoft Teamsを活用しフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	研究遂行能力と研究的思考を身につけ、優れた研究成果を上げるためにも、能動的な学修態度を留意すること。なおリハビリテーション援助学特講は1・2・3年次開講で2単位。						
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を与え報告を行ない、それを蓄積し研究の具体化を進めるため、予習と復習が必須である。課題は、各回授業時において指示する。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、春学期は金曜日5時限目、秋学期は木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。						
授業計画						担当者	
1.保健医療対策の効果－理論						齋藤	
2.保健医療対策の効果－応用						齋藤	
3.余命と健康寿命の延伸－理論						齋藤	
4.余命と健康寿命の延伸－応用						齋藤	
5.アウトカムに関する現状の理解						齋藤	
6.アウトカムに関する討論						齋藤	
7.ヒトを実験的単位とした比較研究－理論						齋藤	
8.ヒトを実験的単位とした比較研究－応用						齋藤	
9.ランダム化比較試験－理論						齋藤	
10.ランダム化比較試験－応用						齋藤	
11.無作為化割り当てについて						齋藤	
12.無作為化割り当てに関する討論						齋藤	
13.脳卒中対象のリハビリテーション援助						齋藤	
14.高齢者対象のリハビリテーション援助－理論						齋藤	
15.高齢者対象のリハビリテーション援助－応用						齋藤	
1.リハビリテーション援助の現状						齋藤	
2.リハビリテーション援助に関する討論						齋藤	

3. 現象をとらえる研究デザイン論－理論	齋藤
4.現象をとらえる研究デザイン論－応用	齋藤
5.研究目的と尺度の連関－理論	齋藤
6.研究目的と尺度の連関－応用	齋藤
7. 結論のシナリオ－理論	齋藤
8.結論のシナリオ－応用	齋藤
9.Relevance－理論	齋藤
10.Relevance－応用	齋藤
11.ポピュレーション・アプローチ－理論	齋藤
12.ポピュレーション・アプローチ－応用	齋藤
13.全人間的復権:現状の理解	齋藤
14.全人間的復権:討論	齋藤
15.既出事項のまとめと討論	齋藤

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	リハビリテーション援助学特講			担当者	原田 和宏		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>本特講では、障害者・要援護高齢者に対する地域を舞台とした支援に焦点を当て、リハビリテーション専門職の積極的な参画や支援の質向上が期待されているトピック、ならびに研究方法論について解説しながら、研究課題を見極め、適切な研究デザインを設定するための科学的思考について身につける事を目標とする。</p>						
授業概要	<p>リハビリテーションの理念は「全人間的復権」であり、社会生活の自立と共生の実現に向けた援助を行うことが本来の姿である。入院による医学的リハビリテーションはもちろん、慢性期の支援や健康寿命延伸に向けた健康増進といった障害予防の取り組みなど地域を舞台とした支援が重視されてきている今日の状況は、本来の理念を具現化するものといえよう。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下で、リハビリテーションは経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が試みられている。こうした状況にあって、リハビリテーション専門職が取り組むべき課題は山積しており、社会的要請の多様化や専門分化が進む今日の動向を見据えつつ、解明すべき研究課題を見極め、それを解くための確固たる研究デザインに結びつける知識や思考を涵養する必要がある。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/プレゼンテーション						
評価方法と割合	<p>文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢 (20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況 (20%) について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する (60%)。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義 (口頭試問) までにみなおしておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>リハビリテーション援助学研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回、予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。</p> <p>また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して、自分なりにノートにまとめること。</p> <p>なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
	授業計画					担当者	
	<p>1. 保健医療対策の効果1 2. 保健医療対策の効果2 3. 余命と健康寿命の延伸1 4. 余命と健康寿命の延伸2 5. アウトカム：現状の理解と討論1 6. アウトカム：現状の理解と討論2 7. ヒトを実験的単位とした比較研究1 8. ヒトを実験的単位とした比較研究2 9. ランダム化比較試験1 10. ランダム化比較試験2 11. 無作為化割り当て：現状の理解と討論1 12. 無作為化割り当て：現状の理解と討論2 13. 脳卒中を対象としたリハビリテーション援助1 14. 脳卒中を対象としたリハビリテーション援助2 15. まとめ 16. 試験 16. 高齢者を対象としたリハビリテーション援助1 17. 高齢者を対象としたリハビリテーション援助2</p>					原田和宏	

18. リハビリテーション援助：現状の理解と討論	
19. 現象をとらえる研究デザイン論1	
20. 現象をとらえる研究デザイン論2	
21. 研究目的と尺度の連関1	
22. 研究目的と尺度の連関2	
23. 結論のシナリオ1	
24. 結論のシナリオ2	
25. Relevance 1	
26. Relevance 2	
27. ハイリスク・アプローチ	
28. ポピュレーション・アプローチ	
29. 全人間的復権：現状の理解と討論	
30. まとめ	
31. 試験	

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	適宜必要な文献および資料等を提示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	リハビリテーション援助学特講			担当者	佐藤 三矢		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ 本講義では、リハビリテーション専門職の積極的な参画が期待されている障害者・要援護高齢者に対する地域を舞台とした支援に焦点を当てた講義を展開する。 到達目標 学生は、自身の研究課題に関連する「研究トピック」ならびに「先行研究における研究方法」を通じて、自身の研究課題を見極めて適切な研究デザインを設定するための科学的思考を習得する。						
授業概要	リハビリテーションの理念は「全人間的復権」であり、社会生活の自立と共生の実現に向けた援助を行うことが本来の姿である。入院による医学的リハビリテーションはもちろんだが、慢性期の支援や健康寿命延伸に向けた健康増進といった障害予防の取り組みなど地域を舞台とした支援が重視されてきている今日の状況は本来の理念を具現化するものといえよう。同時にEvidence-based- medicine (EBM) やEvidence-based-health care (EBH) 重視の潮流の下で、リハビリテーションは経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が試みられている。こうした状況にあって、リハビリテーション専門職が取り組むべき課題は山積しており、社会的要請の多様化や専門分化が進む今日の動向を見据えつつ解明すべき研究課題を見極め、それを解くための確固たる研究デザインに結びつける知識や思考を酒養する必要がある。本科目では、障害者・要援護高齢者に対する地域を舞台とした支援に焦点を当て、リハビリテーション専門職の積極的な参画や支援の質向上が期待されているトピック、ならびに研究方法論について解説し、前記の到達目標にて示した科学的思考の涵養を図るものとする。						
アクティブラーニングの内容	ディベート						
評価方法と割合	授業における課題の取り組み状況（80%）、ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなして評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎講義において、前回の講義で学んだ内容についての質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施し、ここで展開されるディベートを通じて講義内容の理解度を深める。						
履修条件・注意事項	積極的な姿勢で臨むこと（リハビリテーション援助学特講は1・2・3年次開講で2単位）。 十分な理解に到達するために、予習と復習を行うこと。						
事前学習・事後学習とその時間	【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容についての質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 予習と復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日4～5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
	授業計画					担当者	
【春学期】	1.保健医療対策の効果－理論 2.保健医療対策の効果－応用 3.余命と健康寿命の延伸－理論 4.余命と健康寿命の延伸－応用 5.アウトカムに関する現状の理解 6.アウトカムに関する討論						

7.ヒトを対象とした比較研究－理論	佐藤
8.ヒトを対象とした比較研究－応用	
9.ランダム化比較試験－理論	
10.ランダム化比較試験－応用	
11.無作為化割り当てについて	
12.無作為化割り当てに関する討論	
13.脳卒中のリハビリ援助	
14.高齢者のリハビリ援助－理論	
15.高齢者のリハビリ援助－応用	
【秋学期】	
1.リハビリテーション援助の現状	
2.リハビリ援助に関する討論	
3.現象を捉える研究デザイン-理論	
4.現象を捉える研究デザイン-応用	
5.研究目的と尺度の連関－理論	
6.研究目的と尺度の連関－応用	
7.結論のシナリオ－理論	
8.結論のシナリオ－応用	
9.Relevance－理論	
10.Relevance－応用	
11.ポピュレーション・アプローチ－理論	
12.ポピュレーション・アプローチ－応用	
13.全人間的復権:現状の理解	
14.全人間的復権:討論	
15.既出事項のまとめと討論	

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	適宜必要な文献および資料等を提示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	障害構造学特講			担当者	齋藤 圭介		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
S D G s 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>本特講では、障害構造の解明のための研究方法論の修得をテーマに、その遂行に必要な研究的思考と知識技術を身につける。</p> <p>本授業では、障害構造に関する様々な理論に基づき指定した仮説モデルを実証的に検証するための考え方や基本的知識と方法論を身につける事を到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>本特講では、ICF (WHO国際生活機能分類)といった種々の理論モデルを援用し、複雑かつ疾患ごとに大きく態様が異なる障害構造やその変動傾向について実証的に解明することを教授課題とする。</p> <p>具体的には、障害構造や付随する社会的事象について、理論を基にモデルを指定し検証している実証研究を紹介する。また概念を測る様々なスケールが開発されており、疾患特異性を考慮した開発方法と信頼性や妥当性の検証について理解を深める。以上より障害構造を解くための研究技術を身につける。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業における課題の取り組み状況 (80%) , ならびに研究課題の進捗状況 (20%) を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし、両者より評価する。詳しい評価方法は最初の授業時に説明する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価に関わる課題やレポート等は、授業内、またはMicrosoft Teamsを活用しフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	研究遂行能力と研究的思考を身につけ、優れた研究成果を上げるためにも、能動的な学修態度を留意すること。なお障害構造学特講は1・2・3年次開講で2単位。						
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を与え報告を行ない、それを蓄積し研究の具体化を進めるため、予習と復習が必須である。課題は、各回授業時において指示する。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、春学期は金曜日5時限目、秋学期は木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。						
授業計画						担当者	
1. 臨床経験等からの問題認識の明確化と絞込み						齋藤	
2. 臨床経験等からの問題認識の絞込み						齋藤	
3. 関連領域の研究背景と先行研究レビュー・方法論						齋藤	
4. 関連領域の研究背景と先行研究レビュー・実際						齋藤	
5. 研究目的と研究仮説の設定						齋藤	
6. 研究モデルの構築						齋藤	
7. 研究デザインの創案						齋藤	
8. 実証的研究の進め方(研究計画書の作成)・方法論						齋藤	
9. 実証的研究の進め方(研究計画書の作成)・実際						齋藤	
10. 予備調査の計画						齋藤	
11. 予備調査の進め方						齋藤	
12. 観測変数の選択						齋藤	
13. 観測変数のアイテムプール						齋藤	
14. 独立変数(原因)と従属変数(結果)の設定						齋藤	
15. 独立変数(原因)と従属変数(結果)の数量化						齋藤	
1. 予備調査票の作成						齋藤	
2. フィールドおよび対象者の選定						齋藤	
3. データ集計と分析結果の一般化 I						齋藤	

4. データ集計と分析結果の一般化II	齋藤
5. 本調査の作成と実施計画 I	齋藤
6. 本調査の作成と実施計画II	齋藤
7. データ収集	齋藤
8. 統計解析への展開	齋藤
9. 結果の解釈 I	齋藤
10. 結果の解釈II	齋藤
11. 研究報告書の作成・学会発表 I	齋藤
12. 研究報告書の作成・学会発表II	齋藤
13. 学外の学術誌(和文)への論文投稿	齋藤
14. レフリー付き雑誌(英文を含む)へ論文投稿	齋藤
15. 既出事項のまとめ	齋藤

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名 1	使用しない (適宜必要な文献および資料等を提示する)	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	自立支援学特講		担当者	原田 和宏			
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年		ナンバリング				
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	自立支援学特講では、対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し、その効果について科学的な検証を加え、地域保健科学的な支援を確立していくことについて学習を行う。 本特講では実際の研究活動の手順やフィールド活動について解説しながら、問題現象を明らかにして自立支援の原則を見出す方法を習得することを目標とする。						
授業概要	自立支援の方法を検討するためには、問題となる複雑な現象を体系的に単純化したり、既知の事実から未知の事実を推論する過程を理解したりすることが特に重要となる。また、疾病の特性を把握することも必要になる。例えば、脳血管障害を患う対象者の慢性期における自立支援とは、まずは疾病の長期的な機能予後の特性を明らかにすることにより、はじめて支援の手がかりと意義が定まり、支援の効果についての意味づけを行うことが可能となる。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/プレゼンテーション						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	自立支援学研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回、予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
1. 研究疑問の発見 2. 先行研究に散りばめられた事実の縮約（総説化）1 3. 先行研究に散りばめられた事実の縮約（総説化）2 4. 体系的あるいは非体系的な測定誤差 5. 偶然か測定限界か 6. 研究デザインの設計1 7. 研究デザインの設計2 8. 研究デザインの設計3 9. 因果的推論に関する従属変数 10. 説明変数の選び方 11. サンプルの慎重な選択 12. 観察のための周到な手続き 13. 記述研究1 14. 記述研究2 15. まとめ 16. 中間試験 16. 因果的効果の科学的推論に関する説明研究 17. 症例・対照研究による構造的な比較1						原田 和宏	

18. 症例・対照研究による構造的な比較2	
19. データ編集と統計的推論1	
20. データ編集と統計的推論3	
21. 研究成果の妥当性（一般化可能性と制約）1	
22. 研究成果の妥当性（一般化可能性と制約）2	
23. 観察対象の同質性と選択バイアス1	
24. 観察対象の同質性と選択バイアス2	
25. バイアスや交絡因子による過大・過小評価	
26. 研究成果の公表への道のり1	
27. 研究成果の公表への道のり2	
28. 研究の質（研究の内部・外部妥当性）1	
29. 研究の質（研究の内部・外部妥当性）2	
30. まとめ	
31. 最終試験	

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	適宜必要な文献および資料等を提示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	自立支援学特講			担当者	京極 真		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：大学院生は、博士課程の研究遂行に必要な基本的な研究論を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院生は、研究の意義、研究倫理、研究過程と主たる方法を説明できる。 2. 大学院生は、自身の研究課題に関する文献を検索し、レビューを作成できる。 3. 大学院生は、自身の研究課題に関するデータを収集し、分析し、発表できる。 						
授業概要	<p>我が国における保健科学の関心は、科学的根拠に基づく支援へと向い、より良質な科学的知見の創出が求められる。本科目では、保健科学で求められる人材を育てるために、博士課程の研究に必要な研究基礎論を学び、研究計画を立案し、研究計画の発表ができるようになる。</p> <p>研究計画が立案できると計画に沿った研究の遂行が行えるようになる。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	課題（50%）、発表（50%）で行う。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなしておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	口頭及び書面でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	研究遂行に必要な知識と技術の予習と復習について真剣に取り組むこと。						
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習、復習には各2時間ほど必要である。</p> <p>予習では、理解できない点をまとめる、必要な文献を読むことが求められる。</p> <p>復習では、自分なりに研究ノートにまとめて理解を深める必要がある。</p>						
オフィスアワー	<p>曜日：月曜 5 限目、金曜 5 限目</p> <p>場所：6 号館 4 階6428号室</p>						
授業計画						担当者	
1. 自立支援とは						京極	
2. 自立支援の輪読1(IL)						京極	
3. 自立支援の輪読2(MOHO)						京極	
4. 自立支援の輪読3 (CMOPE)						京極	
5. 自立支援の輪読4 (OTIPM)						京極	
6. 自立支援の輪読5 (ICF)						京極	
7. 自立支援の輪読6 (DAB)						京極	
8. 自立支援の輪読7 (OBP2.0)						京極	
9. 輪読内容の発表						京極	
10.自立支援と倫理						京極	
11. 自立支援と社会的背景						京極	
12. 自立支援と研究テーマ1						京極	
13. 自立支援と研究テーマ2						京極	
14. 自立支援と理論的研究						京極	
15. 自立支援と質的研究						京極	
16. 自立支援と量的研究						京極	
17. 自立支援と混合研究						京極	
18. 研究倫理						京極	
19. 研究テーマの検討1						京極	
20. 研究テーマの検討2						京極	
21. 研究テーマと方法の整理1						京極	
22. 研究テーマと方法の整理2						京極	

23. 方法の問題点の検討1	京極
24. 方法の問題点の検討2	京極
25. 文献調査の方法	京極
26. 研究テーマと文献調査1	京極
27. 研究テーマと文献調査2	京極
28. 文献の整理	京極
29. 文献の発表	京極
30. まとめ	京極

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	適宜指定	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1	適宜指定	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保健看護科学特講			担当者	中瀬 克己、赤在 あゆみ、長町 榮子		
配当学科・研究科	2014～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ： 保健看護学分野で、博士論文の作成に取り組む上での、基本的な考え方や知識を学ぶ。</p> <p>到達目標： 我が国における保健看護領域における実践や研究の関心は、臨床での看護問題を中心として、慢性疾患や急性疾患をもつクライアントへの看護介入が多く取り上げられてきた。また、ターミナルケアや障害を持つクライアントへの予防的視点に立った支援や人間の成長発達の視点から、生命の誕生から、終末期にいたるまでの支援、地域住民の健康増進や健康予防、介護予防の視点など、保健看護学の取り組みは多様化する一方で、専門分化が進んでいる。同時に、Evidence-based medicine(EBM)、Evidence-based health care(EBH)重視の潮流のもと、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況のもと、看護学もまた、看護上の問題や疑問を解いていく科学的探究心が求められている。</p> <p>このような保健看護学領域の特徴を踏まえ、保健看護学分野の研究全般に共通する論文の検討、研究デザイン的设计、サンプリング等についての基本的な考え方や研究方法論について説明できる。</p>						
授業概要	博士論文に取り組むための保健看護学分野の研究に関する基本的考え方や研究方法について理解する。 オムニバス方式で担当する。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	口頭または書面でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	できれば、1年次に履修し、博士論文のテーマを絞り込む。 博士課程の学生であることを自覚し、自ら学習や研究に取り組む。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	水曜日3限目、6号館4階長町研究室(6425号室)						
授業計画						担当者	
1. 看護研究の意義と動向、研究倫理と研究者の責務						長町	
2. 研究の基本的プロセス(1)						赤在	
3. 研究の基本的プロセス(2)						赤在	
4. リサーチクエストを立てる、絞り込む(1)						中瀬	
5. リサーチクエストを立てる、絞り込む(2)						長町	
6. 研究課題と研究デザイン(1)						長町	
7. 研究課題と研究デザイン(2)						長町	
8. 介入的・実験的研究方法(1)						長町	
9. 介入的・実験的研究方法(2)						中瀬	
10. 系統的文献検索(1)						中瀬	
11. 系統的文献検索(2)						中瀬	

12. 系統的文献検索 (3)	赤在
13. 系統的文献検索 (4)	赤在
14. 研究課題と研究デザイン (1)	赤在
15. 研究課題と研究デザイン (2)	中瀬
16. 研究課題と研究方法	中瀬
17. 質的研究方法(1)	長町
18. 質的研究方法(2)	長町
19. 量的研究方法(1)	中瀬
20. 量的研究方法(2)	中瀬
21. 介入研究と実験研究(1)	赤在
22. 介入研究と実験研究(2)	赤在
23. 量的研究と統計的解析	中瀬
24. 量的研究とデータ解析	中瀬
25. 研究計画書の作成 (1)	赤在
26. 研究計画書の作成 (2)	長町
27. 研究計画書と研究方法(1)	赤在
28. 研究計画書と研究方法(2)	長町
29. 原著論文の纏め方	赤在
30. 学会発表の方法・まとめ	中瀬

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	看護研究の進め方・論文の書き方	教・出版社名1	医学書院
教・著者名1	早川和生編著	教・ISBN1	978-4-260-01683-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

5. プレ実験 2
6. プレ実験における問題点の検討 1
7. プレ実験 3
8. プレ実験 4
9. プレ実験における問題点の検討 2
10. 実験方法の最終確定
11. 本実験と問題点のディスカッション 1
12. 本実験と問題点のディスカッション 2
13. 本実験と問題点のディスカッション 3
14. 本実験と問題点のディスカッション 4
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション 1

【3年次】

1. 本実験と問題点のディスカッション 1 5
2. 本実験と問題点のディスカッション 1 6
3. 本実験と問題点のディスカッション 1 7
4. 本実験と問題点のディスカッション 1 8
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション 3
6. 本実験と問題点のディスカッション 1 9
7. 本実験と問題点のディスカッション 2 0
8. 本実験と問題点のディスカッション 2 1
9. 本実験と問題点のディスカッション 2 2
10. 本実験と問題点のディスカッション 2 3
11. 実験結果の収集、整理 1
12. 実験結果の収集整理 2
13. 実験結果の統計処理 1
14. 実験結果の統計処理 2
15. 院生による実験結果報告とディスカッション

秋期

【1年次】

1. 研究テーマの検討と策定
2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認
3. 研究テーマに沿った先行研究の調査 1
4. 研究テーマに沿った先行研究の調査 2
5. 研究テーマに沿った先行研究の調査 3
6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ
7. 研究テーマの確定
8. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定 1
9. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定 2
10. 研究テーマに沿った測定方法の計画 1
11. 研究テーマに沿った測定方法の計画 2
12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定
13. 研究計画書の作成 1
14. 研究計画書の作成 2
15. 研究計画書の決定

【2年次】

1. 本実験と問題点のディスカッション 5
2. 本実験と問題点のディスカッション 6
3. 本実験と問題点のディスカッション 7
4. 本実験と問題点のディスカッション 8
5. 実験結果の中間収集、整理 1
6. 実験結果の中間収集、整理 2
7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション

- 長町

【3年次】

- 長町

秋期

【1年次】

- 長町

【2年次】

- 長町

8. 中間発表の問題点の整理	長町
9. 本実験と問題点のディスカッション9	長町
10. 本実験と問題点のディスカッション10	長町
11. 本実験と問題点のディスカッション11	長町
12. 本実験と問題点のディスカッション12	長町
13. 本実験と問題点のディスカッション13	長町
14. 本実験と問題点のディスカッション14	長町
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション2	長町
【3年次】	【3年次】
1. 博士論文作成の概要	長町
2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認	長町
3. 研究方法・実験方法の整理と確認	長町
4. 実験結果の統計処理の整理と確認1	長町
5. 実験結果の統計処理の整理と確認2	長町
6. 実験結果に対する考察1	長町
7. 実験結果に対する考察2	長町
8. 実験結果に対する考察3	長町
9. 論文作成1	長町
10. 論文作成2	長町
11. 論文作成3	長町
12. 論文作成4	長町
13. 院生による作成論文の発表とディスカッション1	長町
14. 院生による作成論文の発表とディスカッション2	長町
15. 論文作成・発表（試験）	長町

教科書			
教・書籍名1	適宜必要な文献・資料等を提示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学			担当者	中瀬 克己		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめる。						
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	口頭または書面でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日2限目あるいは水曜日3限目、6号館4階中瀬研究室(6424号室)						
	授業計画					担当者	
春期	【1年次】 1. 博士課程における研究の概要 2. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理1 3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理2 4. 研究と倫理1 5. 研究と倫理2 6. 参考文献の調査 7. 研究テーマの作成 8. 研究対象者の選択 9. 測定方法の計画1 10. 測定方法の計画2 11. サンプルサイズの推定1 12. サンプルサイズの推定2 13. 研究デザイン(コホート研究) 14. 研究デザイン(横断研究とケースコントロール研究) 15. 研究デザイン(観察研究における交絡と交互作用)					春期 【1年次】 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬	
	【2年次】 1. 研究対象者に対する倫理的配慮 2. 実験における問題点のディスカッション1 3. 実験における問題点のディスカッション2 4. プレ実験1					【2年次】 中瀬 中瀬 中瀬 中瀬	

5. プレ実験 2
6. プレ実験における問題点の検討 1
7. プレ実験 3
8. プレ実験 4
9. プレ実験における問題点の検討 2
10. 実験方法の最終確定
11. 本実験と問題点のディスカッション 1
12. 本実験と問題点のディスカッション 2
13. 本実験と問題点のディスカッション 3
14. 本実験と問題点のディスカッション 4
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション 1

【3年次】

1. 本実験と問題点のディスカッション 1 4
2. 本実験と問題点のディスカッション 1 5
3. 本実験と問題点のディスカッション 1 6
4. 本実験と問題点のディスカッション 1 7
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション 3
6. 本実験と問題点のディスカッション 1 8
7. 本実験と問題点のディスカッション 1 9
8. 本実験と問題点のディスカッション 2 0
9. 本実験と問題点のディスカッション 2 1
10. 本実験と問題点のディスカッション 2 2
11. 実験結果の収集、整理 1
12. 実験結果の収集整理 2
13. 実験結果の統計処理 1
14. 実験結果の統計処理 2
15. 院生による実験結果報告とディスカッション

秋期

【1年次】

1. 研究テーマの検討と策定
2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認
3. 研究テーマに沿った先行研究の調査 1
4. 研究テーマに沿った先行研究の調査 2
5. 研究テーマに沿った先行研究の調査 3
6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ

中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬

【3年次】

中瀬
中瀬

秋期

【1年次】

中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬

【2年次】

中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬
中瀬

7. 研究テーマの確定	中瀬
8. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定 1	中瀬
9. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定 2	中瀬
10. 研究テーマに沿った測定方法の 計画 1	中瀬
11. 研究テーマに沿った測定方法の 計画 2	中瀬
12. 研究テーマにおけるサンプル数の 決定	中瀬
13. 研究計画書の作成 1 :	【3年次】
14. 研究計画書の作成 2	中瀬
15. 研究計画書の決定	中瀬
【2年次】	
1. 本実験と問題点のディスカッション 5	中瀬
2. 本実験と問題点のディスカッション 6	中瀬
3. 本実験と問題点のディスカッション 7	中瀬
4. 本実験と問題点のディスカッション 8	中瀬
5. 実験結果の中間収集、整理 1	中瀬
6. 実験結果の中間収集、整理 2	中瀬
7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	中瀬
8. 中間発表の問題点の整理	中瀬
9. 本実験と問題点のディスカッション 9	中瀬
10. 本実験と問題点のディスカッション 1 0	中瀬
11. 本実験と問題点のディスカッション 1 1	中瀬
12. 本実験と問題点のディスカッション 1 2	中瀬
13. 本実験と問題点のディスカッション 1 4	中瀬
14. 本実験と問題点のディスカッション 1 5	中瀬
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション 2	中瀬
【3年次】	
1. 博士論文作成の概要	
2. 研究テーマの社会的背景の整理と 確認	
3. 研究方法・実験方法の整理と確認	
4. 実験結果の統計処理の整理と確認 1	
5. 実験結果の統計処理の整理と確認 2	
6. 実験結果に対する考察 1	
7. 実験結果に対する考察 2	
8. 実験結果に対する考察 3	
9. 論文作成 1	
10. 論文作成 2	

11. 論文作成 3	
12.論文作成 4	
13.院生による作成論文の発表とディスカッション 1	
14. 院生による作成論文の発表とディスカッション 2	
15.論文作成・発表（試験）	

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名 1	適宜必要な文献・資料等を提示する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学			担当者	河村 顕治		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	学生は臨床や研究上の疑問から研究課題を見つけだし、研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等を学び、その成果を研究論文としてまとめることができる。						
授業概要	自ら研究テーマを決め、論文を作成するため、先行研究や原著について指導し、文献の検索方法や読解力を養い、思考能力を高めるようにする。そうして、文献の講読を行いながら、研究仮説を立案し、実験あるいは調査の綿密な計画をたてさせる。その立案された研究計画に沿って、データの集積、分析、論文執筆などについても指導し、学会発表、論文投稿についてタイムスケジュールを考慮しながら論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。</p> <p>また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。</p> <p>なお、予習、復習には各2時間程度を要する。</p>						
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目を実施。						
授業計画						担当者	
1年次【春学期】						河村顕治	
1. 博士課程における研究の概要						河村顕治	
2. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理 1						河村顕治	
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理 2						河村顕治	
4. 研究と倫理 1						河村顕治	
5. 研究と倫理 2						河村顕治	
6. 参考文献の調査						河村顕治	
7. 研究テーマの作成						河村顕治	
8. 研究対象者の選択						河村顕治	
9. 測定方法の計画 1						河村顕治	
10. 測定方法の計画 2						河村顕治	
11. サンプルサイズの推定 1						河村顕治	
12. サンプルサイズの推定 2						河村顕治	
13. 研究デザイン（コホート研究）						河村顕治	
14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究）						河村顕治	
15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用）						河村顕治	
1年次【秋学期】						河村顕治	
1. 研究テーマの検討と策定						河村顕治	
2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認						河村顕治	
3. 研究テーマに沿った先行研究の調査 1						河村顕治	
4. 研究テーマに沿った先行研究の調査 2						河村顕治	
5. 研究テーマに沿った先行研究の調査 3						河村顕治	

6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	河村顕治
7. 研究テーマの確定	河村顕治
8. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定 1	河村顕治
9. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定 2	河村顕治
10. 研究テーマに沿った測定方法の計画 1	河村顕治
11. 研究テーマに沿った測定方法の計画 2	河村顕治
12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	河村顕治
13. 研究計画書の作成 1	河村顕治
14. 研究計画書の作成 2	河村顕治
15. 研究計画書の決定	
2年次【春学期】	河村顕治
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	河村顕治
2. 実験における問題点のディスカッション 1	河村顕治
3. 実験における問題点のディスカッション 2	河村顕治
4. プレ実験 1	河村顕治
5. プレ実験 2	河村顕治
6. プレ実験における問題点の検討 1	河村顕治
7. プレ実験 3	河村顕治
8. プレ実験 4	河村顕治
9. プレ実験における問題点の検討 2	河村顕治
10. 実験方法の最終確定	河村顕治
11. 本実験と問題点のディスカッション 1	河村顕治
12. 本実験と問題点のディスカッション 2	河村顕治
13. 本実験と問題点のディスカッション 3	河村顕治
14. 本実験と問題点のディスカッション 4	河村顕治
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション 1	
2年次【秋学期】	河村顕治
1. 本実験と問題点のディスカッション 5	河村顕治
2. 本実験と問題点のディスカッション 6	河村顕治
3. 本実験と問題点のディスカッション 7	河村顕治
4. 本実験と問題点のディスカッション 8	河村顕治
5. 実験結果の中間収集、整理 1	河村顕治
6. 実験結果の中間収集、整理 2	河村顕治
7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	河村顕治
8. 中間発表の問題点の整理	河村顕治
9. 本実験と問題点のディスカッション 9	河村顕治
10. 本実験と問題点のディスカッション 10	河村顕治
11. 本実験と問題点のディスカッション 11	河村顕治
12. 本実験と問題点のディスカッション 12	河村顕治
13. 本実験と問題点のディスカッション 13	河村顕治
14. 本実験と問題点のディスカッション 14	河村顕治
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション 2	
3年次【春学期】	河村顕治
1. 本実験と問題点のディスカッション 1 4	河村顕治
2. 本実験と問題点のディスカッション 1 5	河村顕治
3. 本実験と問題点のディスカッション 1 6	河村顕治
4. 本実験と問題点のディスカッション 1 7	河村顕治
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション 3	河村顕治
6. 本実験と問題点のディスカッション 1 8	河村顕治
7. 本実験と問題点のディスカッション 1 9	河村顕治
8. 本実験と問題点のディスカッション 2 0	河村顕治
9. 本実験と問題点のディスカッション 2 1	河村顕治
10. 本実験と問題点のディスカッション 2 2	河村顕治
11. 実験結果の収集、整理 1	河村顕治
12. 実験結果の収集整理 2	河村顕治

13.実験結果の統計処理 1	河村顕治
14.実験結果の統計処理 2	河村顕治
15.院生による実験結果報告とディスカッション	
3年次【秋学期】	河村顕治
1. 博士論文作成の概要	河村顕治
2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認	河村顕治
3.研究方法・実験方法の整理と確認	河村顕治
4.実験結果の統計処理の整理と確認 1	河村顕治
5. 実験結果の統計処理の整理と確認 2	河村顕治
6. 実験結果に対する考察 1	河村顕治
7. 実験結果に対する考察 2	河村顕治
8. 実験結果に対する考察 3	河村顕治
9. 論文作成 1	河村顕治
10. 論文作成 2	河村顕治
11. 論文作成 3	河村顕治
12.論文作成 4	河村顕治
13.院生による作成論文の発表とディスカッション 1	河村顕治
14. 院生による作成論文の発表とディスカッション 2	河村顕治
15.論文作成・発表（試験）	

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名 1	医学的研究のデザイン 第4版 - 研究の質を高める疫学的アプローチ -	教・出版社名 1	メディカル・サイエンス・インターナショナル
教・著者名 1	Stephen B. Hulley他（木原雅子・木原正博訳）	教・I S B N 1	978-4-89592-783-3
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学			担当者	高橋 淳		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 12. つくる責任・つかう責任</p> 						
到達目標	バイオ研究に必要な知識、方法、実験技術、思考法を学び、その成果を論文（英語）としてまとめ発表することを目標とする。						
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. バイオ研究の最先端を理解するための基礎知識を学ぶ。 2. 実験方法を学び、分子細胞生物学的手技に習熟する。 3. 保健福祉研究所で実験に従事して、データを取得・解析する。 4. 抄読会で英語論文を読み、英語表現、英語での討論に慣れる。 5. 英語論文執筆法を学び、英語論文投稿から受理までの過程を経験する。 						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	講義後の提出レポートで、知識を評価する（10%）。実験において、態度を評価する（10%）。実験結果の検討会で実験技術、思考法を評価する（20%）。抄読会で英語力を評価する（10%）。博士論文の内容で知識、方法への理解、思考法を評価する（40%）。博士論文発表会の際の口頭試問で、研究内容への理解を評価する（10%）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中評価のために出した課題・レポートは、授業でフィードバックするので、最終講義までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員1名によって行う。適宜、副指導教員による指導も行う。 実験研究に対して、真摯に臨み、よく考え、盛んに討論し、勤勉に努力する態度を涵養する。 動物実験に従事するかどうかは、本人の希望を尊重する。						
事前学習・事後学習とその時間	バイオ研究に知的好奇心を持ち、積極的に質問し、レポート課題に前向きに取り組んでほしい。研究者は実験室で育つ。講義を聞きながら、あるいは実験を進めながら、積極的に質問し、討論し、実地に学んでほしい。英語の文献に親しみ、英語で論文を書ける実力を身につけてほしい。予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室（6414）にて、水曜日の4時限目を実施。						
授業計画						担当者	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 分子細胞生物学特別講義 2. 分子細胞生物学実験法 3. 実験（1） 4. 実験（2） 5. 実験（3） 6. 実験（4） 7. 実験（5） 8. 実験（6） 9. 実験（7） 10. 実験（8） 11. 実験（9） 12. 実験（10） 13. 実験結果検討会 14. 抄読会 15. 英語論文執筆法 						高橋	
教科書							
教・書籍名1	教科書は特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学			担当者	齋藤 圭介		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	臨床や研究上の疑問から研究課題をみつけだし、博士論文の研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等を学び、その成果を論文としてまとめることができる。						
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. 新規性のあるデータの集積、分析、論文執筆などについて指導する。 4. 学会発表、論文投稿について博士論文作成のタイムスケジュールを考慮して、指導する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価に関わる課題等は、授業内、またはMicrosoft Teamsを活用しフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日の3時限目を実施。						
授業計画						担当者	
【春学期授業計画】						齋藤	
1.保健科学研究領域の概要						齋藤	
2.研究テーマの策定						齋藤	
3.研究テーマに沿った基礎知識の確認						齋藤	
4.研究テーマに関する先行研究の調査						齋藤	
5.研究テーマに関する先行研究の概要発表						齋藤	
6.概要発表の講評						齋藤	
7.研究テーマと先行研究の比較						齋藤	
8.研究テーマの確定						齋藤	
9.中間フォロー						齋藤	
10.研究計画調書の執筆概要の説明と作成						齋藤	
11.研究計画調書の確認および講評						齋藤	
12.研究計画調書の完成						齋藤	
13.研究計画調書発表資料の執筆概要の説明と作成						齋藤	
14.研究計画調書発表資料の確認及び講評						齋藤	
15.研究計画調書発表資料の完成						齋藤	
(2年次)						齋藤	
1. 研究対象者に対する倫理的配慮						齋藤	
2. 実験における問題点のディスカッション1						齋藤	
3. 実験における問題点のディスカッション2						齋藤	

10. 本実験と問題点のディスカッション1 0	齋藤
11. 本実験と問題点のディスカッション1 1	齋藤
12. 本実験と問題点のディスカッション1 2	齋藤
13. 本実験と問題点のディスカッション1 4	齋藤
14. 本実験と問題点のディスカッション1 5	齋藤
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション2 (3年次)	齋藤
1. 博士論文作成の概要	齋藤
2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認	齋藤
3. 研究方法・実験方法の整理と確認	齋藤
4. 実験結果の統計処理の整理と確認 1	齋藤
5. 実験結果の統計処理の整理と確認 2	齋藤
6. 実験結果に対する考察 1	齋藤
7. 実験結果に対する考察 2	齋藤
8. 実験結果に対する考察 3	齋藤
9. 論文作成 1	齋藤
10. 論文作成 2	齋藤
11. 論文作成 3	齋藤
12. 論文作成 4	齋藤
13. 院生による作成論文の発表とディスカッション 1	齋藤
14. 院生による作成論文の発表とディスカッション 2	齋藤
15. 論文作成・発表 (試験)	

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名 1	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版	教・出版社名 1	メディカル・サイエンス・インターナショナル
教・著者名 1	木原雅子, 木原正博 (翻訳)	教・ISBN 1	4895927830
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ISBN 2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ISBN 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ISBN 2	

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学			担当者	中角 祐治		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	作業療法への神経生理検査の応用						
授業概要	<p>脳・脊髄・末梢神経・筋・骨関節の障害で生じる随意運動障害について、神経生理学的なアプローチを紹介して行く。これらの手法は、原因部位の診断のみならず、重症度も把握できる。そのため、治療経過での症状の推移を追うことにも応用できる。</p> <p>上肢機能の改善を目的とした作業療法は、ハンドセラピーとも呼ばれ、専門的な治療が行われている。作業療法士は、臨床検査を行うことも可能で、この領域の知識と技術を学ぶことは、臨床的に有用と考えられる。</p> <p>まず、臨床神経生理学の歴史的な変遷を紹介する。</p> <p>次に、神経筋の構造と機能を再学習する。</p> <p>そして、神経伝導検査の原理と実際を学ぶ。ここでは、臨床でもちいられている検査機器の構造と特性を知ることから、運動神経と知覚神経の伝導速度の測定、F波やH反射の誘発、神経筋接合部の疾患に対する反復刺激検査、瞬目反射、さらに、大脳磁気刺激による運動誘発電位についても学ぶ。</p> <p>その他、針筋電図の原理と実際について、神経原性、筋原性疾患の特徴を学習する。</p> <p>最後に、症例が提示されるので、実際的な臨床応用のありかたも感じとってもらいたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	期末試験（100％）試験結果について文章でフィードバックします。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	メールのやり取りで、フィードバックします。						
履修条件・注意事項	学部の学生時代の生理学、臨床神経学を見直すこと						
事前学習・事後学習とその時間	予習復習に各2時間を要す						
オフィスアワー	水曜3限、6号館4階、6411研究室						
授業計画						担当者	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
講義						中角	
実習						中角	
実習						中角	
実習						中角	

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学			担当者	原田 和宏		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「脳血管障害における長期予後の特性および介入効果に関する実証的研究」、「脳血管障害の長期機能予後に関する研究」、「地域高齢者の評価に関する研究」の方法論に関して、博士論文研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめることができる。						
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. 新規性のあるデータの集積、分析、論文執筆などについて指導する。 4. 学会発表、論文投稿について博士論文作成のタイムスケジュールを考慮して、指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/プレゼンテーション/フィールドワーク						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
(1年次) 1.保健科学研究領域の概要 2.研究テーマの策定 3.研究テーマに沿った基礎知識の確認 4.研究テーマに関する先行研究の調査 5.研究テーマに関する先行研究の概要発表 6.概要発表の講評 7.研究テーマと先行研究の比較 8.研究テーマの確定 9.中間フォロー 10.研究計画調書の執筆概要の説明と作成 11.研究計画調書の確認および講評 12.研究計画調書の完成 13.研究計画調書発表資料の執筆概要の説明と作成 14.研究計画調書発表資料の確認及び講評 15.研究計画調書発表資料の完成 16. 試験 (2年次)							

1. 研究対象者に対する倫理的配慮
2. 実験における問題点のディスカッション 1
3. 実験における問題点のディスカッション 2
4. プレ実験 1
5. プレ実験 2
6. プレ実験における問題点の検討 1
7. プレ実験 3
8. プレ実験 4
9. プレ実験における問題点の検討 2
10. 実験方法の最終確定
11. 本実験と問題点のディスカッション 1
12. 本実験と問題点のディスカッション 2
13. 本実験と問題点のディスカッション 3
14. 本実験と問題点のディスカッション 4
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション 1
16. 試験
(3年次)
 1. 本実験と問題点のディスカッション
1 4
 2. 本実験と問題点のディスカッション
1 5
 3. 本実験と問題点のディスカッション
1 6
 4. 本実験と問題点のディスカッション
1 7
 5. 本実験結果の中間報告とディスカッション 3
 6. 本実験と問題点のディスカッション
1 8
 7. 本実験と問題点のディスカッション
1 9
 8. 本実験と問題点のディスカッション
2 0
 9. 本実験と問題点のディスカッション
2 1
 10. 本実験と問題点のディスカッション
2 2
 11. 実験結果の収集、整理 1
 12. 実験結果の収集整理 2
 13. 実験結果の統計処理 1
 14. 実験結果の統計処理 2
 15. 院生による実験結果報告とディスカッション
16. 試験
(1年次)
 1. 研究計画の策定
 2. 参考文献の調査
 3. 参考文献の精読
 4. 調査方法の検討
 5. 調査方法の確定
 6. 調査の実施
 7. 調査結果の収集
 8. 調査結果の整理

原田和宏

- 9.研究進捗状況報告書の概要説明
- 10.研究進捗状況報告書の作成
- 11.研究進捗状況報告書の内容確認と講評
- 12.研究進捗状況報告書の提出と研究の進捗
- 13.調査方法の見直し
- 14.調査の再実施
- 15.調査結果の再集計, 他まとめ
16. 試験
(2年次)
 1. 本実験と問題点のディスカッション
5
 2. 本実験と問題点のディスカッション
6
 3. 本実験と問題点のディスカッション
7
 4. 本実験と問題点のディスカッション
8
 5. 実験結果の中間収集、整理 1
 6. 実験結果の中間収集、整理 2
 7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション
 8. 中間発表の問題点の整理
 9. 本実験と問題点のディスカッション
9
 10. 本実験と問題点のディスカッション
10
 11. 本実験と問題点のディスカッション
11
 12. 本実験と問題点のディスカッション
12
 13. 本実験と問題点のディスカッション
14
 14. 本実験と問題点のディスカッション
15
 15. 本実験結果の中間報告とディスカッション 2
16. 試験
(3年次)
 1. 博士論文作成の概要
 2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認
 3. 研究方法・実験方法の整理と確認
 4. 実験結果の統計処理の整理と確認
1
 5. 実験結果の統計処理の整理と確認
2
 6. 実験結果に対する考察 1
 7. 実験結果に対する考察 2
 8. 実験結果に対する考察 3
 9. 論文作成 1
 10. 論文作成 2
 11. 論文作成 3
 12. 論文作成 4
 13. 院生による作成論文の発表とディスカッション 1
 14. 院生による作成論文の発表とディスカッション 2
 15. 論文作成・発表
 16. 試験

教科書			
教・書籍名1	医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版	教・出版社名1	メディカル・サイエンス・インターナショナル
教・著者名1		教・ISBN1	ISBN 978-4-89592-583-9
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学		担当者	服部 俊夫			
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年		ナンバリング				
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を						
							
到達目標	骨から由来するオステオポンチンなどの蛋白の感染・免疫に及ぼす影響						
授業概要	オステオポンチンの組織での局在を細胞株、組織で解析し、感染・免疫疾患において、どのような役割をするかを研究する。同時に同じマトリックス蛋白であるgalectin-9についても検討し、比較する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / 実習						
評価方法と割合	実験データや、それに関する研究現況の把握。 レポートの提出後はその内容に関してフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題に対しての回答を見て、課題の意味と学生の修学意識の乖離について教育する。						
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に出席することがレポート提出の条件である。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	毎週木曜日午前11時から12時 6号館 408						
授業計画						担当者	
1. 博士課程における研究の概要 2. 臨床疑問、研究疑問の発表 3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理 4. 研究と倫理（臨床研究） 5. 研究と倫理（実験研究） 6. 参考文献の調査 7. 研究テーマの作成 8. 研究対象者の選択 9. 測定方法の計画（臨床研究） 10. 測定方法の計画（実験研究） 11. サンプルサイズの推定 12. サンプルサイズの推定・実技 13. 研究デザイン（コホート研究） 14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究） 15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用）						服部俊夫	
教科書							
教・書籍名1	Janeway's immunobiology 9th ed. Garland Science ISBN: 978-0-8153-4551-0				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・ISBN1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・ISBN2		

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学			担当者	吉備国際大学未定教員、赤在 あゆみ		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	研究課題を定め、研究論文作成のために必要な、手続き、知識、取り組む姿勢および方法について学び、研究成果を論文としてまとめる。						
授業概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や原著などを理解し、文献の検索やその読解力磨き、思考力を高める。その結果、研究仮説を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成まで行う。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション						
評価方法と割合	完成論文の内容(50%)と研究発表会における質疑応答の内容(50%)を合わせて評価する。評価のため実施した課題等は、授業でフィールドバックするので最終講義までに見直しておく。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のため実施した課題等は、授業でフィールドバックする。						
履修条件・注意事項	自ら積極的に研究課題について探求し、データ集積、分析、考察を行う等、研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する必要がある。						
事前学習・事後学習とその時間	研究内容に関する最新の論文を読み、その理解を深めることが重要である。他国の論文を理解するには時間を要するが、内容を整理することで論文作成に重要となる。予習として、論文概要を把握し、復習として、授業中検討した論文の内容を深く理解する。						
オフィスアワー	火曜1限、6号館4階6420研究室						
授業計画						担当者	
【春学期】						赤在	
1年次						赤在	
1 ; 研究の概要						赤在	
2 ; 研究疑問の発表						赤在	
3 ; 研究疑問の整理						赤在	
4 ; 研究と倫理(看護研究)						赤在	
5 ; 研究と倫理(臨床研究)						赤在	
6 ; 参考文献の調査						赤在	
7 ; 研究テーマの作成						赤在	
8 ; 研究対象の選択						赤在	
9 ; 研究デザイン						赤在	
2年次						赤在	
1 ; 研究対象に対する倫理的配慮						赤在	
2 ; 研究における問題点の発表						赤在	
3 ; 研究における問題点に対するディスカッション						赤在	
4 ; 研究における問題点に対するディスカッションのまとめ						赤在	
5 ; 研究の中間報告						赤在	
3年次						赤在	
1 ; 中間報告の問題点						赤在	
2 ; 中間報告の問題点にたいするディスカッション						赤在	
3 ; 中間報告の問題点にたいするディスカッションの整理						赤在	
4 ; 中間報告の問題点のまとめ						赤在	
5 ; 研究の修正						赤在	
【秋学期】						赤在	
1年次						赤在	

1・2；研究計画内容、仮説の再検討	赤在
3；研究テーマに基づいた文献の分析方法	赤在
4；研究テーマに基づいた文献の先行研究との比較	赤在
5；研究テーマに基づいた文献の図表等の表し方	赤在
6；研究テーマに基づいた文献のまとめ	赤在
7；研究テーマの確定	赤在
8；データの集積	赤在
9；データ入力	赤在
10；データ生理	赤在
11；データ分析1	赤在
12；データ分析2	
13；データ分析結果の検討	赤在
2年次	赤在
1；プレゼンテーション技術(スライド作成について)	赤在
2；プレゼンテーション技術(要旨・発表内容について)	赤在
3；中間発表とディスカッション	赤在
4；中間発表の問題点の整理	赤在
5；結果に対する考察の検討1	赤在
7；結果に対する考察の検討2	赤在
8；結果に対する考察の検討3	
3年次	赤在
1；研究論文作成1(目的)	赤在
2；研究論文作成目的2(意義)	赤在
3；研究論文作成3(方法)	赤在
4；研究論文作成4(結果)	赤在
5；研究論文作成5(考察)	赤在
6；研究論文作成6(結論)	赤在
7；結論の検討	赤在
8；看護への活用	赤在
9；論論文の完成に向けての注意事項	赤在
10；研究論文の作成・発表	

教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

【2年次】

1. 本研究と問題点の議論 5
2. 本研究と問題点の議論 6
3. 本研究と問題点の議論 7
4. 本研究と問題点の議論 8
5. 研究結果の中間収集、整理 1
6. 研究結果の中間収集、整理 2
7. 中間発表と議論
8. 中間発表の問題点の整理
9. 本研究と問題点の議論 9
10. 本研究と問題点の議論 1 0
11. 本研究と問題点の議論 1 1
12. 本研究と問題点の議論 1 2
13. 本研究と問題点の議論 1 4
14. 本研究と問題点の議論 1 5
15. 本研究結果の中間報告と議論 2

【3年次】

1. 博士論文作成の概要
2. 社会的背景の整理と確認
3. 研究方法の整理と確認
4. 研究結果の整理と確認 1
5. 研究結果の整理と確認 2
6. 研究結果に対する考察 1
7. 研究結果に対する考察 2
8. 研究結果に対する考察 3
9. 論文作成 1
10. 論文作成 2
11. 論文作成 3
12. 論文作成 4
13. 作成論文の発表と議論 1
14. 作成論文の発表と議論 2
15. 論文作成・発表

【2年次】

京極
京極

【3年次】

京極
京極

教科書			
教・書籍名 1	適宜紹介	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	適宜紹介	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学			担当者	井上 茂樹		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	大学院生は、臨床上や研究上の疑問から研究課題をみつけだし、研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等を学び、その成果を研究論文としてまとめることを目標とする。						
授業概要	自ら研究テーマを決め、論文を作成するため、先行研究や原著について指導し、文献の検索方法や読解力を養い、思考能力を高めるようにする。そうして、文献の講読を行いながら、研究仮説を立案し、実験あるいは調査の綿密な計画をたてさせる。その立案された研究計画に沿って、データの集積、分析、論文執筆などについても指導し、学会発表、論文投稿についてタイムスケジュールを考慮しながら論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	研究指導全般を通して知識や態度、考察力、表現力等を評価する。なお、参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を重視する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
1年次 春学期						1年次 春学期	
1. 博士課程における研究の概要						井上茂樹	
2. 臨床・研究疑問の整理						井上茂樹	
3. 社会的背景の整理						井上茂樹	
4. 研究と倫理 1						井上茂樹	
5. 研究と倫理 2						井上茂樹	
6. 参考文献の調査						井上茂樹	
7. 研究テーマの作成						井上茂樹	
8. 研究対象者の選択						井上茂樹	
9. 測定方法の計画 1						井上茂樹	
10. 測定方法の計画 2						井上茂樹	
11. サンプルサイズの推定 1						井上茂樹	
12. サンプルサイズの推定 2						井上茂樹	
13. 研究デザインの探究1						井上茂樹	
14. 研究デザインの探究2						井上茂樹	
15. 研究デザインの探究3						井上茂樹	
秋学期						秋学期	
1. 研究テーマの検討と策定						井上茂樹	
2. 研究テーマの基礎知識の確認						井上茂樹	
3. 研究テーマの先行研究の調査 1						井上茂樹	
4. 研究テーマの先行研究の調査 2						井上茂樹	
5. 研究テーマの先行研究の調査 3						井上茂樹	
6. 研究テーマの先行研究のまとめ						井上茂樹	

7. 研究テーマの確定	井上茂樹
8. 研究テーマの独立変数の選定	井上茂樹
9. 研究テーマの従属変数の選定	井上茂樹
10. 研究テーマの測定方法の計画 1	井上茂樹
11. 研究テーマの測定方法の計画 2	井上茂樹
12. 研究テーマのサンプル数の決定	井上茂樹
13. 研究計画書の作成 1	井上茂樹
14. 研究計画書の作成 2	井上茂樹
15. 研究計画書の決定	井上茂樹
2年次	2年次
春学期	春学期
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	井上茂樹
2. 実験における問題点の討議 1	井上茂樹
3. 実験における問題点の討議 2	井上茂樹
4. 予備実験 1	井上茂樹
5. 予備実験 2	井上茂樹
6. 予備実験における問題点の検討 1	井上茂樹
7. 予備実験 3	井上茂樹
8. 予備実験 4	井上茂樹
9. 予備実験における問題点の検討 2	井上茂樹
10. 実験方法の最終確定	井上茂樹
11. 本実験と問題点の討議 1	井上茂樹
12. 本実験と問題点の討議 2	井上茂樹
13. 本実験と問題点の討議 3	井上茂樹
14. 本実験と問題点の討議 4	井上茂樹
15. 本実験結果の中間報告と討議 1	井上茂樹
秋学期	秋学期
1. 本実験と問題点の討論 5	井上茂樹
2. 本実験と問題点の討論 6	井上茂樹
3. 本実験と問題点の討論 7	井上茂樹
4. 本実験と問題点の討論 8	井上茂樹
5. 実験結果の中間収集、整理 1	井上茂樹
6. 実験結果の中間収集、整理 2	井上茂樹
7. 実験結果の中間発表と討論	井上茂樹
8. 中間発表の問題点の整理	井上茂樹
9. 本実験と問題点の討論 9	井上茂樹
10. 本実験と問題点の討論 1 0	井上茂樹
11. 本実験と問題点の討論 1 1	井上茂樹
12. 本実験と問題点の討論 1 2	井上茂樹
13. 本実験と問題点の討論 1 4	井上茂樹
14. 本実験と問題点の討論 1 5	井上茂樹
15. 本実験結果の中間報告と討論 2	井上茂樹
3年次	3年次
春学期	春学期
1. 本実験と問題点の討議 1 4	井上茂樹
2. 本実験と問題点の討議 1 5	井上茂樹
3. 本実験と問題点の討議 1 6	井上茂樹
4. 本実験と問題点の討議 1 7	井上茂樹
5. 本実験結果の中間報告と討議 3	井上茂樹
6. 本実験と問題点の討議 1 8	井上茂樹
7. 本実験と問題点の討議 1 9	井上茂樹
8. 本実験と問題点の討議 2 0	井上茂樹
9. 本実験と問題点の討議 2 1	井上茂樹

10. 本実験と問題点の討議 2 2	井上茂樹
11. 実験結果の収集、整理 1	井上茂樹
12. 実験結果の収集整理 2	井上茂樹
13. 実験結果の統計処理 1	井上茂樹
14. 実験結果の統計処理 2	井上茂樹
15. 院生による実験結果報告と討議	井上茂樹
秋学期	秋学期
1. 博士論文作成の概要	井上茂樹
2. 研究の社会的背景の整理と確認	井上茂樹
3. 研究方法・実験方法の整理と確認	井上茂樹
4. 実験結果の統計処理の整理	井上茂樹
5. 実験結果の統計処理の確認	井上茂樹
6. 実験結果に対する考察 1	井上茂樹
7. 実験結果に対する考察 2	井上茂樹
8. 実験結果に対する考察 3	井上茂樹
9. 論文作成 1	井上茂樹
10. 論文作成 2	井上茂樹
11. 論文作成 3	井上茂樹
12. 論文作成 4	井上茂樹
13. 院生による論文の発表と討論 1	井上茂樹
14. 院生による論文の発表と討論 2	井上茂樹
15. 論文作成・発表（試験）	井上茂樹

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名 1	資料・文献は適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学			担当者	中嶋 正明		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	臨床経験上の疑問から取り組む研究を探り臨床的貢献度から研究課題を定め、研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等を学び、その成果を研究論文としてまとめることを目標とする。						
授業概要	臨床上での疑問や臨床的貢献度から自らの研究テーマを定め、研究論文を作成するため、先行研究や原著について指導し、文献の読解力を養い、思考能力を高めるようにする。そうして、文献の講読を行いながら、研究仮説を立案し、実験あるいは調査の綿密な計画をたてさせる。その立案された研究計画に沿って、データの集積、分析、論文執筆などについても指導し、学会発表、論文投稿についてタイムスケジュールを考慮しながら論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直ししておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階、6983号室：水曜日3-5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						
授業計画					担当者		
1. 博士課程における研究の概要					中嶋		
2. 臨床疑問、研究疑問の発表					中嶋		
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理					中嶋		
4. 研究と倫理（臨床研究）					中嶋		
5. 研究と倫理（実験研究）					中嶋		
6. 参考文献の調査					中嶋		
7. 研究テーマの作成					中嶋		
8. 研究対象者の選択					中嶋		
9. 測定方法の計画（臨床研究）					中嶋		
10. 測定方法の計画（実験研究）					中嶋		
11. サンプルサイズの推定					中嶋		
12. サンプルサイズの推定・実技					中嶋		
13. 研究デザイン（コホート研究）					中嶋		
14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究）					中嶋		
15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用）					中嶋		

教科書			
教・書籍名1	「アクセプトされる英語医学論文を書こう！」	教・出版社名1	メジカルビュー社
教・著者名1	ネル・L・ケネディ	教・ISBN1	4-89553-969-5
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学			担当者	森下 元賀		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「脳血管障害の運動麻痺に対するニューロリハビリテーションの効果検証」、「嚥下障害に対する姿勢調節、感覚刺激による改善効果の検証」、「地域在住高齢者に対する介護予防事業の実証的研究」の方法論に関して、博士論文研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめ、査読付き雑誌に掲載させることが出来る。						
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. 新規性のあるデータの集積、分析、論文執筆などについて指導する。 4. 学会発表、論文投稿について博士論文作成のタイムスケジュールを考慮して、指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において、毎週火曜日2限と木曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
(1年次) 1.保健科学研究領域の概要 2.研究テーマの策定 3.研究テーマに沿った基礎知識の確認 4.研究テーマに関する先行研究の調査 5.研究テーマに関する先行研究の概要発表 6.概要発表の講評 7.研究テーマと先行研究の比較 8.研究テーマの確定 9.中間フォロー 10.研究計画調書の執筆概要の説明と作成 11.研究計画調書の確認および講評 12.研究計画調書の完成 13.研究計画調書発表資料の執筆概要の説明と作成 14.研究計画調書発表資料の確認及び講評 15.研究計画調書発表資料の完成 (2年次) 1. 研究対象者に対する倫理的配慮							

2. 実験における問題点のディスカッション1	森下元賀
3. 実験における問題点のディスカッション2	
4. プレ実験1	
5. プレ実験2	
6. プレ実験における問題点の検討1	
7. プレ実験3	
8. プレ実験4	
9. プレ実験における問題点の検討2	
10. 実験方法の最終確定	
11. 本実験と問題点のディスカッション1	
12. 本実験と問題点のディスカッション2	
13. 本実験と問題点のディスカッション3	
14. 本実験と問題点のディスカッション4	
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション1 (3年次)	
1. 本実験と問題点のディスカッション14	
2. 本実験と問題点のディスカッション15	
3. 本実験と問題点のディスカッション16	
4. 本実験と問題点のディスカッション17	
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3	
6. 本実験と問題点のディスカッション18	
7. 本実験と問題点のディスカッション19	
8. 本実験と問題点のディスカッション20	
9. 本実験と問題点のディスカッション21	
10. 本実験と問題点のディスカッション22	
11. 実験結果の収集、整理1	
12. 実験結果の収集整理2	
13. 実験結果の統計処理1	
14. 実験結果の統計処理2	
15. 院生による実験結果報告とディスカッション	

教科書			
教・書籍名1	臨床研究first stage	教・出版社名1	医学書院
教・著者名1	網本和、高倉保幸編	教・ISBN1	978-4-260-03227-8
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

AL		森

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	Essential細胞生物学原書第4版	教・出版社名1	南江堂
教・著者名1	中村桂子/松原謙一	教・ISBN1	978-4-524-26199-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保健科学特殊研究 2022年入学			担当者	佐藤 三矢		
配当学科・研究科	2011～2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「地域在住高齢者を対象とした介護予防や健康増進を目的とした介入効果に関する実証的研究」、「認知症高齢者への福祉美容介入（ネイル／フェイスマイク／ヘアセッティング／ファッションなど）が対象者のQOLに及ぼす効果に関する研究」、「認知症高齢者へのレクリエーション介入が対象者のQOLに及ぼす効果に関する研究」の方法論に関して、博士論文研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめることができる。						
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養って思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる（文献研究を行う院生にはその構想を立案させる）。 3. 新規性のあるデータの集積・分析・論文執筆などについて指導する。 4. 学会発表や論文投稿について、博士論文作成のタイムスケジュールを考慮して指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文に関する研究テーマの妥当性・研究方法・論旨の妥当性・倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や等は授業内でフィードバックしていく（このことは最終講義の口頭試問まで連続性をもたせて実施）。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した「主指導教員（1名）」と「副指導教員（2名）」によって行う。 時間を厳守すると共に与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考えて積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
事前学習・事後学習とその時間	【予習】 各授業計画および前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 【復習】 毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認し、マイノートにまとめていくこと。 ※予習と復習には「各2時間程度」を要する。						
オフィスアワー	6号館4階個人研究室において、毎週火曜日1,2時限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
【1年次／春学期】 1.保健科学研究領域の概要 2.研究テーマの策定 3.研究テーマに沿った基礎知識の確認 4.研究テーマに関する先行研究の調査 5.研究テーマに関する先行研究の概要発表 6.概要発表の講評 7.研究テーマと先行研究の比較 8.研究テーマの確定 9.中間フォロー 10.研究計画調書の執筆概要の説明と作成 11.研究計画調書の確認および講評 12.研究計画調書の完成 13.研究計画調書発表資料の執筆概要の説明と作成 14.研究計画調書発表資料の確認及び講評 15.研究計画調書発表資料の完成							

【2年次／春学期】

1. 研究対象者に対する倫理的配慮
2. 実験における問題点のディスカッション1
3. 実験における問題点のディスカッション2
4. プレ実験1
5. プレ実験2
6. プレ実験における問題点の検討1
7. プレ実験3
8. プレ実験4
9. プレ実験における問題点の検討2
10. 実験方法の最終確定
11. 本実験と問題点のディスカッション1
12. 本実験と問題点のディスカッション2
13. 本実験と問題点のディスカッション3
14. 本実験と問題点のディスカッション4
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション1

【3年次／春学期】

1. 本実験と問題点のディスカッション14
2. 本実験と問題点のディスカッション15
3. 本実験と問題点のディスカッション16
4. 本実験と問題点のディスカッション17
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3
6. 本実験と問題点のディスカッション18
7. 本実験と問題点のディスカッション19
8. 本実験と問題点のディスカッション20
9. 本実験と問題点のディスカッション21
10. 本実験と問題点のディスカッション22
11. 実験結果の収集、整理1
12. 実験結果の収集整理2
13. 実験結果の統計処理1
14. 実験結果の統計処理2
15. 院生による実験結果報告とディスカッション

【1年次／秋学期】

1. 研究計画の策定
2. 参考文献の調査
3. 参考文献の精読
4. 調査方法の検討
5. 調査方法の確定
6. 調査の実施
7. 調査結果の収集
8. 調査結果の整理
9. 研究進捗状況報告書の概要説明
10. 研究進捗状況報告書の作成
11. 研究進捗状況報告書の内容確認と講評
12. 研究進捗状況報告書の提出と研究の進捗
13. 調査方法の見直し
14. 調査の再実施
15. 調査結果の再集計、他まとめ

【2年次／秋学期】

1. 本実験と問題点のディスカッション5
2. 本実験と問題点のディスカッション6
3. 本実験と問題点のディスカッション7
4. 本実験と問題点のディスカッション8
5. 実験結果の中間収集、整理1

佐藤

6. 実験結果の中間収集、整理 2 7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション 8. 中間発表の問題点の整理 9. 本実験と問題点のディスカッション 9 10. 本実験と問題点のディスカッション 1 0 11. 本実験と問題点のディスカッション 1 1 12. 本実験と問題点のディスカッション 1 2 13. 本実験と問題点のディスカッション 1 4 14. 本実験と問題点のディスカッション 1 5 15. 本実験結果の中間報告とディスカッション 2 【3年次／秋学期】 1. 博士論文作成の概要 2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認 3. 研究方法・実験方法の整理と確認 4. 実験結果の統計処理の整理と確認 1 5. 実験結果の統計処理の整理と確認 2 6. 実験結果に対する考察 1 7. 実験結果に対する考察 2 8. 実験結果に対する考察 3 9. 論文作成 1 10. 論文作成 2 11. 論文作成 3 12. 論文作成 4 13. 院生による作成論文の発表とディスカッション 1 14. 院生による作成論文の発表とディスカッション 2 15. 論文作成・発表（試験）	
--	--

教科書

教・書籍名 1	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版	教・出版社名 1	メディカル・サイエンス・インターナショナル
教・著者名 1		教・ISBN 1	978-4895927833
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ISBN 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ISBN 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ISBN 2	